

ふるさと小野町会
ふれあい通信

まさるの軌跡



橋本 勝

- 埼玉支部
- 浮金出身

私は1947年(昭和22年)3月5日に日影山の麓で生まれ、浮金小・浮金中に通い自然の中で育ちました。

高校は郡山西工業高等学校(郡山工業高等学校と統合し、現在、郡山北工業高等学校)の科学工学科でした。その道に進んでいたら今頃は白衣を着て、新型コロナウイルス感染症対策の研究をしていたかもしれません(…それはないでしょう!笑)

卒業後は、叔父の経営する印刷会社(各種封書制作・社名印刷)で51年間営業一筋で働き、無事に定年を迎え『王将(歌：村田英雄)』の替え歌で別れてきました。

- 一 吹けば飛ぶような封筒一枚に
懸けた命を 笑わば笑え
生まれ日影で育ってきたので
風邪もひかずに頑張れました
- 二 あの会社この会社開拓をして
靴一つで駆け巡ってきました
愚痴も言わずに社員の皆さん
助けてくれてありがとう

私には子どもが2人おり、長男は電装関係の仕事に就き、現在は神奈川県営業所長として頑張っています。長男の一人娘(孫娘)は都内幼稚園の5歳児(年長)の担任として毎日奮闘しています。

次男夫婦は小学校の教員で、昨年、私どもの近くに新しく家を建てました。2歳8カ月の長男と7月に生まれたばかりの長女と4人で生活しています。

現在の私は、板橋区成増地域のバイクや自転車の放置防止指導員として週3日働き、47年間連れ添っている女房と源太郎というオス猫一匹と暮らしています。退職後から毎朝欠かさずNHKの朝の体操を行い、夜はビールと焼酎を程よくいただき、人生を謳歌しています。

小野町戦没者追悼式を開催



戦没者追悼式の様子

町主催、小野町遺族会共催による令和2年度小野町戦没者追悼式が9月23日、多目的研修集会施設で行われました。式典には、戦没者の遺族、議会議員、行政区長、民生・児童委員など約70人が参列しました。

式典では参列者全員で国歌を斉唱し黙とうを行った後、町長が「戦没者の方々の尊い犠牲に支えられ、築き上げてきた繁栄を次の世代に継承しつつ、命の尊さや平和の尊さを永遠に語り継いでいくことが私どもの重要な責務であります。町をあげて戦没者の方々のご冥福を祈り、町民の皆さんとともに恒久平和への誓いを新たにします」と式辞を述べました。

続いて、来賓を代表して、田村弘文会議長、石戸浩小野町遺族会会長が追悼の言葉を述べ、参列者一人ひとりが戦没者を偲び献花をして恒久平和を祈りました。

広報おのまちは



マチイ〇 で配信中



iOS用



android用